

研究課題名：ドセタキセルによるアレルギーの出現予測因子決定のためのゲノムワイド関連解析研究に関する情報公開

1. 研究の対象

2013年10月2日～2018年3月31日に当院でドセタキセルによる治療を受けられ、アレルギーが起きた方

2. 研究目的・方法

化学療法剤に対するアレルギー反応は予防的に前投薬を行っても一定の割合で発生する。重篤なものではアナフィラキシーを呈し、死に至ることもある。とくにタキサン系やプラチナ系での頻度が高い。なかでもドセタキセルは多くのがん腫でキードラックであり、化学療法室でのアレルギーの頻度が高い。しかし、投与前にアレルギー反応を起こすかどうかを予測することは困難である。薬物アレルギーには一般に、複数の遺伝子の遺伝子多型が関与している。これまでは代謝経路や薬理作用から候補遺伝子を同定し、その遺伝子多型を検索するアプローチが主流であったが、機能が不明の未知の遺伝子を同定することができないという欠点があった。それに対し近年、全ゲノムの一塩基多型 (SNP) を網羅的に検索し未知の感受性遺伝子を同定する方法として、ゲノムワイド関連解析 (Genome-Wide Association Study : GWAS) が開発された。本研究では2013年10月2日～2018年3月31日にドセタキセルが投与された癌患者を対象に、ドセタキセルによるアレルギーと相関する SNP を GWAS により網羅的に解析し、同定された遺伝子多型とアレルギーとの相関関係を明らかにする。また過去の報告で薬物アレルギーである薬疹とヒト白血球抗原 (Human Leukocyte Antigen : HLA) の関連が報告されており、今回の研究においても関連を調査する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・ 臨床情報 (性別、年齢、全身状態、病期、これまでの治療歴、レジメン、ドセタキセル投与量および投与期間、併用薬、アレルギーの発症日・程度、採血データ)
- ・ 試料 : 血液

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部附属病院 化学療法部

住所 名古屋市昭和区鶴舞町 65

連絡先 TEL/FAX 052-744-1903 水谷武史

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院 化学療法部 教授 安藤 雄一